埼玉県

福祉部　障害者福祉推進課
社会参加推進・芸術文化担当　千木良・秋山
直通 048-830-3309
内線 3309
E-mail: a3310-06@pref.saitama.lg.jp

＜報道発表資料＞

カテゴリー:お知らせ

令和８年１１月１１日

「第２０回塙保己一賞」の受賞者が決定しました
－１２月２０日(日)に表彰式・記念イベントを行いますー

顕著な活躍をされている障害者や、障害者のために貢献している方・団体を表彰する「塙保己一賞」の第２０回受賞者を決定しました。

令和８年１２月２０日(日)に、グローバルソフトウェア本庄文化ホール（本庄市民文化会館）で表彰式を行います。

また、記念イベントとして、本庄市の子ども劇団による群読劇「世のため後のため塙保己一物語」に続き、「見えるか保己一」著者の蝉谷めぐ実氏と第１９回塙保己一賞大賞受賞者の広瀬浩二郎氏によるトークセッションを行います。

どなたでも御参加いただけます。皆様の御来場を心よりお待ちしています。

１　第２０回塙保己一賞　受賞者・プロフィール

※年齢は表彰日現在

（１）大賞(社会的に顕著な活躍をしてきた障害のある個人)

■藤野　高明（ふじの　たかあき)氏　８７歳　（大阪府）

視覚障害１級。肢体不自由（両手先欠損)。

1946 年、7 歳の時に不発弾爆発により両眼・両手先を失う。

長年の入院生活や、手先がないため点字の読み書きやあんまなどができないことから、盲学校への入学を断られたが、唇で点字を読む練習を繰り返すなど、不屈の精神力で努力を重ね、20 歳で大阪市立盲学校に進学。

1970 年に大阪府に教員採用試験を点字で受験できるように求め、1971 年に特例として、公立学校の教員採用試験をはじめて点字で受験した。

教員採用試験に合格し、社会科教員として盲学校に長年勤務。視覚障害者の教育に貢献し、大阪府立大学の非常勤講師も務めるなど後進の育成に尽力。

全日本視覚障害者協議会の事務局長、副会長、会長を歴任。

戦争が残した不発弾の被害者としての経験から障害者の人権と平和を守る活動に尽力し、多数の講演や著作を通じて社会に勇気と感動を与え続けている。

1993 年に第 11 回鳥居賞、2011 年に第 15 回糸賀一雄記念賞、2021 年に第 58 回点字毎日文化賞を受賞。

（２）奨励賞(今後さらに社会的な活躍が期待される６０歳未満の障害のある個人)

■成澤　俊輔（なりさわ　しゅんすけ)氏　４１歳　（神奈川県）

視覚障害１級。

一般社団法人 Your choice 代表理事

3 歳の頃に網膜色素変性症と診断され、次第に視力を失う。

これまでに様々な困難を抱えた人への就労支援事業や、多種多様な業種の経営者へのコンサルティングを行う。

全国の企業や地域で、障害・多様性・働くことについて 2,000 回以上の講演や登壇を重ね、障害者雇用の促進と多様な働き方への啓発に貢献。

メディアアーティスト落合陽一氏らと、視覚障害の有無に関わらず同じ場で食事を楽しむ「DIVERSUSHI（ダイバースシ)」や、音や身体感覚を活用した「Low Vision KickBoxing（ロービジョンキックボクシング)」など、多様性を体験的に促進する革新的なプロジェクトを展開し、社会の固定観念を変える活動を積極的に実施している。

ポッドキャスト番組で、様々な分野のトップランナーとの交流を通じて、多様な価値観を伝え、可能性や興味を広げる機会を作っている。

キャッチコピーは「世界一明るい視覚障がい者」。障害のある人が当たり前に社会参加できるよう、社会の「当たり前」を変えるために「どうすればできるのか」を考え、挑戦を続けている。

（３）貢献賞(社会的に顕著な障害者支援活動等を行った個人・団体)

○２団体

■特定非営利活動法人タンデム自転車 NON ちゃん倶楽部　（愛媛県）

2010 年の活動開始以来、2 人で力を合わせてこぐタンデム自転車を活用し、障害のある人たちが自転車を楽しめるイベントや、マリンアクティビティを年間 8 回開催。

「できるかできないか」ではなく、「やるかやらないか」という信念を掲げ、障害者の可能性を引き出し、新たな夢を持つきっかけを創出している。

障害種別を問わず当事者と家族を受け入れ、多世代のボランティアの支援によりインクルーシブな活動を推進している。

全盲の方のトライアスロン挑戦や、脳性麻痺の子どもを含むチームによるしまなみ海道 70 キロ縦走など、挑戦的な活動を支援し、参加者の自己実現と社会参加を促進している。視覚障害者が原作を手掛けた絵本を製作し、教育機関へ寄付。

全国に向けて活動の情報を発信し、タンデム自転車の全国走行許可に向けた働きかけを行い、障害者理解の促進と環境整備に寄与している。

障害種別を超えた交流と相互理解、家族の孤立感の軽減に貢献し、共生社会の実現に向けた支援活動を継続している。

2018 年に文部科学大臣表彰、2022 年に読売福祉文化賞、2023 年に内閣府「女性のチャレンジ賞」を受賞。

■株式会社武蔵野銀行　（埼玉県）

埼玉県さいたま市に本店を置く地方銀行として1952（昭和27）年に創業。

埼玉県を中心に100店舗を展開している地域密着型の金融機関。

「地域共存」「顧客尊重」の経営理念のもと、総合的な金融サービスの提供に努めるとともに、行政・企業・教育機関・非営利団体などと連携し、地域社会の活性化や福祉向上などにも積極的に取組んでいる。

1973（昭和48）年、創業20周年を記念し、障がいのある方の社会参加を支援するため、リフト付大型バス「おおぞら号」を埼玉県に寄贈。

以来、「おおぞら6世号」まで計6台を寄贈、身体障害者や知的・精神障害者、難病患者など多くの方々に利用され、社会参加と孤立防止に貢献。（記録が残っている2011（平成23）年から2026（令和8）年の15年間で、延べ約1,300団体、約45,000人が利用）

埼玉県のマスコット「コバトン」等のラッピングを施したバスは視認性も高く、走行を通じて幅広い方々のバリアフリー意識の醸成に貢献してきた。

同行ではこのほか、従業員に対する研修を通じた障がいへの理解向上、店舗施設のバリアフリー化などに取組むほか、埼玉県障害者アートフェスティバルへの協賛・本店でのアート作品展示といった形で芸術活動支援も行っている。

（４）特別賞（長年にわたり、地域で地道な障害者支援活動等を行った個人・団体）

○２団体

■点訳ボランティア六点会　（埼玉県）

1981年設立、45年にわたり活動している。

現在、会員数12名で、幅広い分野の書籍を点訳し、埼玉県立熊谷点字図書館に点訳書を納める。

目の見えない方も目の見える方も一緒に楽しむことができる点訳絵本を製作している。

プライベートサービスでは、取扱説明書・カラオケ歌詞など身近なものから、国家試験などの専門書まで希望に沿った点訳を行う。

晴眼者の方からの依頼によるイベントのプログラム等の点訳、点字サインの製作、墨字訳を行う。

点字普及のため、地域での点字教室などで児童から一般の方まで点字指導を行っており、地域福祉向上にも貢献している。

■認定特定非営利活動法人熱いぞ熊谷からの野球教室　（埼玉県）

2009（平成 21）年から現在まで、幼稚園・保育所等において、幼児期の発達に応じた独自の「ボール投げ教室」を継続的に実施。年間約 1,000 人の子どもたちに体験型の運動教育を提供している。

幼児への指導経験を基盤に、2019（令和元）年から埼玉県立本庄特別支援学校、2023（令和 5）年から埼玉県立秩父特別支援学校においても、児童一人ひとりの発達段階や障害の特性に配慮したボール投げ指導を継続している。

踏板や棒状タオル等を活用した独自の補助教材や、30 項目以上にわたる段階的な指導内容、「成長の記録カード」を開発・活用し、個々の発達や身体の動きに応じた指導方法を体系化している。

教室で使用するキャッチボール球は、毎回使用後に障害福祉サービス事業所へボール磨きを委託している。障害のある方々の仕事の機会を創出し、工賃収入の向上を支援するなど、教育活動と障害福祉を結びつけた地域貢献にも取り組んでいる。

「投げる」という身体活動を通じて、運動能力の向上だけでなく、他者との関わり、集団への参加、達成感や自信を育む機会を創出。障害のある子どもたちの将来の自立と社会参加につながる基礎づくりに取り組んでいる。

２　表彰式、記念イベント

（１）日時・会場

令和８年１２月２０日(日)　１３時００分から１６時１０分

グローバルソフトウェア本庄文化ホール（本庄市民文化会館）

（２）プログラム

①表彰式(１３時００分から１４時１０分)

知事から受賞者に表彰状及び記念品の授与

②記念イベント（１４時２０分から１６時１０分）

群読劇「世のため後のため　塙保己一物語」（１４時２０分から１５時００分）

出演：子ども劇団

トークセッション（１５時１０分から１６時１０分）

出演：蝉谷めぐ実氏（「見えるか保己一」著者）

広瀬浩二郎氏（第１９回塙保己一賞大賞受賞者）

■子ども劇団

地元の小中学生、高校生の児童生徒で構成する劇団。塙保己一の業績を広く伝えるために活動を続けており、結成から６年目を迎える。多くの子供達が参加しながら、塙保己一の生涯を演じ続けている。

■蝉谷　めぐ実（せみたに　めぐみ）氏

2020 年『化け者心中』で第 11 回小説野性時代新人賞を受賞し、デビュー。その後、数々の受賞歴あり。2026 年に『見えるか保己一』で第 39 回山本周五郎賞を受賞。

■広瀬　浩二郎（ひろせ　こうじろう）氏

文化人類学研究者。

2004 年に社会福祉法人視覚障害者支援総合センター第 2 回チャレンジ賞、2023 年に文化庁長官表彰を受賞。

（３）定員など

・定員４００人

・入場無料。どなたでもお越しいただけます。

（４）駅からの無料送迎バス

表彰式当日は、以下の駅から、電車の発着に合わせて臨時無料送迎バスを運行します。

［バスの運行時刻］

・ＪＲ高崎線 本庄駅 南口：１１時２０分発、１１時４９分発、１２時１８分発
１２時４７分発